

市民記者のページ



星野 道子さん (向上野)

以前は野外での開催でしたが、現在はホールでの開催になり、花冷えの心配はななくゆっくりと観覧できます。

平成4年、当時の明野町に公民館大ホール「イル・ブリランテ」が落成したのを機に、地域に伝統文化を根付かせたいと願う住民ボランティアにより明野新能実行委員会が結成されたそうです。交流のあった能楽師大倉正之助おおくらしょうじゆすけさんの舞台プロデュースにより、平成5年に第1回公演が行われました。東日本大震災などで2度の開催見送りがありましたが、

明野新能のはじまり

4月初旬、一流の能楽師・狂言師が出演して開催される「明野新能」。幽玄な舞は、来場者を別世界へと誘います。第3回から20年以上にわたり実行委員長を務める古田部光文こたべみつふみさんに、これまでの活動について伺いました。

明野新能実行委員の活躍を紹介します

日本の伝統文化を後世に伝えたい

明野新能たきぎのう



▲舞台上立つ大倉正之助さん(大鼓)

今年で24回目の公演を迎えています。

「初回は、ビール箱を針金で結び、その上に板を乗せて、約50人で2日間かけて舞台を作りました。あまりにも大変な仕事なので、毎年この作業を続けるのかと弱音を吐きましたが、何とか続けてこられました」と話す古田部委員長。第4回からは、鉄骨の土台に所作台を乗せる設置方法となり、どんな場所にも同じ舞台が組めるようになったそうです。第5回からは、地元の子どもたちが舞台に立ち、より一層地域に根ざしたイベントとなりました。

日本各地で活躍

自前の舞台設備を持っているということで、日本各地で舞台の設置を行う

ているそうです。長野オリンピックには、外国の人々に日本文化を見てもらおう催しの舞台設置を行いました。他にも、東京六本木アークヒルズや岩手県大槌町復興記念能楽など、全国から依頼を受けて出向き、明野新能への賛助金をいただいています。明野新能が入場無料で開催できるのは、実行委員の努力があつてこそです。

明野新能にかける熱い思い

「新能を通して様々な経験ができました。大変なこともありますが、観てくださる人たちに喜んでもらえるから続けていくのです」と話す古田部委員長。今後も継続していくために、若い人に実行委員に入って欲しいと思っています。



▲子どもたちによる大小鼓連調「高砂」

情報ワイド 60分番組

11月6日(月)～放送

(9/10撮影)

歌謡発表会

11月13日(月)～放送

(9/19撮影)

筑西市アマチュアダンス協会発表会

11月20日(月)～放送

(9/3撮影)

とすこいペア

H30年2月開局予定

エリア拡大します!



※筑西市が出資する第3セクターの会社です。

0120-09-1811